

透明性ガイドラインQ & A

【2020年4月】

No	Q	A
1	新型コロナウイルス感染拡大の影響で学会（学術集会）がWeb開催となり、それに伴い共催セミナーも、講演スライドをWeb上に掲載する方法に変更となりましたが、学会事務局から、既に弊社が支払い済みの共催費用について、会場のキャンセル料に全額又は一部を充てるとの連絡がありました。この場合、透明性ガイドライン上、学会等共催費として公開対象になるのでしょうか。あるいは会場のキャンセル料に充てられた場合は、対象外になるのでしょうか？	新型コロナウイルス感染拡大の影響で学会が中止になるなどして、共催セミナーが開催されなかった場合も、既に支払った共催費用は（会場のキャンセル料に充てられる場合を含め）、「B.学術研究助成費」の「学会等共催費」として公開対象になります。 なお、共催費用が一部返金された場合は、その差額（支払った共催費用から返金分を差し引いた金額）を公開してください。また、共催費用が全額返金された場合は、公開は不要となります。
2	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、弊社主催で企画していた講演会を開催中止としましたが、会場のキャンセル料が発生しました。この場合、最終的に講演会を開催していないため、キャンセル料は透明性ガイドラインの公開対象外としてよいのでしょうか？	企画していた自社主催の講演会等を中止にした場合に、講演会場のキャンセル料の支払いが発生しても、公開対象にはなりません。
3	2020年2月発行のQ & AのNo.1（※）について、共催費の中に講師謝金が含まれる場合に、C項目で公開対象になるのは、当該講師が特定臨床研究の研究責任医師の場合のみと考えてよいのでしょうか？	2019年4月の透明性ガイドライン改定は、臨床研究法に対応し、従来の透明性確保の取組をさらに向上させることなどを目的としたものです。この点を踏まえ、2020年2月発行のQ & AのNo.1のケースでは、講師が特定臨床研究の研究責任医師ではない場合においても、原則として講師謝金はC項目で公開するようにしてください。

（※）2020年2月発行のQ & AのNo.1

Q	学会等との共催セミナー等で、学会側に支払う共催費の中から講師謝金が支払われる場合、これまでは学会名と共催費金額を公開していましたが、改定後のガイドラインでも、従来通りの公開でよいのでしょうか？
A	臨床研究法により、特定臨床研究の研究責任医師への講師謝金等の支払いに関する情報の公表が義務付けられています。そのため医師個人に対する直接的な資金提供だけでなく、学会等を通じた間接的な資金提供についても、情報を公開する必要があります。このことから、原則として講師謝金は学会等共催費に含めず（学会等共催費と区別して）、講師の医療関係者に直接支払い、C項目で公開してください。